

[成果情報名] ダイズ「エンレイ」の奨励品種採用

[要約] 早生で実需者評価の高い「エンレイ」を奨励品種に採用し、岐阜県中山間地域において普及をはかる。

[キーワード] ダイズ、エンレイ、奨励品種、早生種

[担当] 岐阜県中山間農業技術研究所・試験研究部

[連絡先] 電話 0577-73-2029、電子メール c24402@pref.gifu.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・関東東海・水田畑作物

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

岐阜県では自給率向上を目標にダイズの生産を振興し、中山間地域においても生産が本格化している。従来の奨励品種は「アキシロメ」であったが、高標高地域では晩生であり、収量や品質が不安定であることに加え、地域における実需者への知名度が低いため、作付は少なかった。このため「アキシロメ」に替え、中山間地域から山間地域において早生で地域の実需評価が高く、収量や品質が安定している「エンレイ」を奨励品種に採用し、ダイズの生産振興を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 中山間農業技術研究所（飛騨市古川町；標高 493m）における「エンレイ」は以下の特徴がある（表 1、表 2）
 - （1）開花期は「アキシロメ」より 9 日早く、成熟期は「アキシロメ」より 24 日早い。
 - （2）主茎長は「アキシロメ」より 14cm 短く、耐倒伏性は「アキシロメ」より優れる。
 - （3）主茎節数は「アキシロメ」より 4 節少ない。
 - （4）分枝数は「アキシロメ」並である。
 - （5）収量性は「アキシロメ」より 13 % 多収である。
 - （6）百粒重は 39.6 g と「アキシロメ」よりも重い。
 - （7）外観品質は「アキシロメ」より良好である。
 - （8）タンパク質含有量は「アキシロメ」より高い。

2. 県内中山間地における特徴と評価は以下のとおりである（表 3）
 - （1）東濃中山間地域では、品質や収量が不安定である。
 - （2）美濃中山間地域では収量が多いが、しわ粒や腐敗粒の発生により品質が劣る。
 - （3）飛騨中山間地域から山間地域では、品質、収量ともに良好であり、地元流通業者や豆腐生産業者の評価も高い。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及対象は飛騨中山間地域から山間地で、普及面積は 100ha を見込む。

[具体的データ]

表1 奨励品種決定基本調査結果 - 1

品 種 名	年 次	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分 枝 数 (本)	全 重 (kg/a)	子 実 重 (kg/a)	収 量 比 率 (%)	百 粒 重 (g)
エンレイ	2000	7.23	10.03	58.0	10.9	3.5	85.1	41.9	124	37.0
	2001	7.24	10.08	61.0	12.1	6.5	62.7	34.6	108	40.4
	2002	7.29	10.09	64.0	12.8	2.4	80.8	40.9	129	40.2
	2003	7.30	10.20	75.3	14.2	3.8	82.9	41.1	97	38.6
	平均	7.26	10.10	64.6	12.5	4.1	77.9	39.6	113	39.1
対照 アキロメ	2000	8.03	10.20	78.0	15.4	3.8	90.3	33.9	100	29.3
	2001	8.04	11.07	80.0	16.6	8.2	70.0	32.0	100	38.6
	2002	8.01	10.31	75.0	16.4	1.9	74.5	31.6	100	29.7
	2003	8.10	11.18	82.3	17.4	3.5	124.5	42.5	100	35.1
	平均	8.04	11.03	78.8	16.5	4.4	89.8	35.0	100	33.2

表2 奨励品種決定基本調査結果 - 2

品 種 名	年 次	倒 伏	障 害 粒				粗蛋白質 含有量 (%)	外 観 品 質	有 望 度
			紫 班	褐 斑	裂 皮	し わ 粒			
エンレイ	2000	0.0	1.5	0.8	0.0	-	42.9	3.5	
	2001	0.0	0.3	0.3	0.3	-	42.8	3.8	
	2002	0.0	0.0	0.0	0.0	-	45.3	4.0	
	2003	0.0	0.5	0.0	0.0	1.0	45.0	3.5	
	平均	0.0	0.6	0.3	0.1	(1.0)	44.0	3.7	
対照 アキロメ	2000	0.5	1.0	1.0	0.5	-	39.2	3.8	-
	2001	0.0	0.0	1.5	2.0	-	42.9	4.0	-
	2002	1.0	0.0	0.0	1.5	-	43.7	5.5	-
	2003	2.0	0.3	1.0	1.5	0.3	44.0	5.5	-
	平均	0.9	0.3	0.9	1.4	(0.3)	42.5	4.7	-

倒伏、障害：0～5 = 無～甚、粗タンパク質含有量は近赤外分析法による測定値
品質：上上～下下 = 1～9 有望度： 有望 やや有望 再検討

表3 現地調査結果 (2002～2003年)

標高 (m)	地域名 (町村名)	収量比 (%)	評価	概 評
650	飛騨山間 (清見村)	118		品質良く多収。実需者の評価高い。
500	飛騨中山間 (飛騨市)	105		品質、収量良好。実需者の評価高い。
400	東濃中山間 (串原村)	52	×	シワ粒多く収量劣る。
300	美濃中山間 (白鳥町)	139		多収だが腐敗により品質劣る。

収量比は「アキシロメ」対照

[その他]

研究課題名：主要農作物における奨励品種決定調査及び種子生産事業

予算区分：県単

研究期間：2000～2003年度

研究担当者：鍵谷俊樹、河合靖司、柳瀬関三